

メディアセンターの活動の記録<2022年度>

メディアセンター本部

1. 全体

(1) 2023年度予算申請

2023年度の予算編成は、義塾執行部から2019年度予算比4%以上の削減が求められた。運営費と図書予算の双方を対象として減額に取り組み、メディアセンター全体で削減目標を遵守した。

(2) 通信教育課程生への電子資料リモートアクセスサービス提供開始（4月～）

通信教育課程生の学習環境拡充のため、通信教育部・ITCと連携し卒論登録生および通年スクーリング生に対して、keio.jpアカウントによる電子資料へのリモートアクセスサービスの提供を開始した。

(3) PRRLA (Pacific Rim Research Libraries Alliance : 環太平洋研究図書館連合) Annual Meetingへの参加（10月13～14日）

オンライン開催の年次大会に所長とスタッフ1名が参加した。2020年に加盟後、コロナ禍を経て初参加。

(4) 第19回研修会の開催（11月18日）

「ニューノーマル時代の大学と図書館のリスクを考える」をテーマに、三田・北館ホールとZoomウェビナー併用のハイフレックス形式で開催した。講演者は、岡田英史常任理事、東北大学附属図書館事務部長 小陳左和子氏、総合政策学部 新保史生教授。メディアセンター以外の職員も含めて129名が参加した。

(5) 海外との交流再開

コロナ禍で途絶えていた海外研修が復活し、私立大学図書館協会海外派遣研修を利用して1名（長坂功）を1か月間イリノイ大学モーションソンセンターアソシエイツ・プログラムへ派遣した（5月）。また米国ワシントン大学館内東アジア図書館から斯道文庫佐々木孝浩教授が招聘され、資料保存担当者や和漢籍等の研究者と交流を深め（10月23日～30日）同大学との交換プログラムも再開した。

(6) 学術図書館ラウンドテーブル（7月20日）

Ex Librisが主催する会合において、須田所長が早慶図書館システム協同運用の成果を発表した。

(7) 職員のリクルーティング

専任職員人材確保のため、文学部図書館・情報学専攻3年生の授業時間の中で、若手先輩職員が大学図書館、慶應メディアセンターで働くことについて話をする機会を持った。

2. リソースマネジメント関連

(1) 学術論文のオープンアクセス（OA）化への動き

慶應義塾の研究成果可視化のため、学術雑誌への投稿論文をOAにする論文掲載料の免除や割引のある電子ジャーナル契約（転換契約）を、学術研究支援部（学研）と協力して進めている。4月からElsevier社と購読+ゴールドOA契約を、2023年1月からはWiley社と論文105本までを無償でOA化する契約を締結し、追加契約金は学研管轄の経費から支出した。またCambridge University Pressとの転換契約は2022年で終了し、2023年からはOxford University Pressとの契約をスタートさせた。

(2) 慶應義塾大学学術情報リポジトリ（KOARA）運用規則の改正（6月）

KOARAの運用規則を改正した。条文を実態に沿って修正し、第1条で大学の事業であることを明示した。

(3) 早慶和書電子化推進コンソーシアム

早慶両大学による「早慶和書電子化推進コンソーシアム」と紀伊國屋書店が協働し、出版社5社と和書の電子化を推進する実験的プロジェクトを10月に開始（2024年3月まで）した。提供タイトルは約1,200点で、KOSMOSで検索・利用が可能。

3. システム関連

(1) メディアセンターデジタルコレクションの広がり デジタルコレクションで『論語疏』巻六を新

規公開した（5月）。慶應義塾ミュージアム・ commonsのポータルサイトであるKeio Object HubやPRRLAが運用するデジタルライブラリPacific Rim Libraryともデータ連携し、グローバルに利活用される可能性を広げている。また2020年で公開を停止した「慶應義塾写真データベース」を、Keio Object Hubに移管して再公開した。

- (2) KOARAへのグリーンOA論文登録機能追加（4月）
メタデータ項目や外部データ連携機能などにシステム改修を行い、KOARAへのグリーンOA論文の登録を実現し、受付を開始した。
- (3) KOSMOS（OPAC）端末リプレース（10月）
各メディアセンター館内に設置しているOPAC端末をリプレースした。設置台数は81台で前回リプレース時とほぼ同じ。
- (4) 新会計システムへの対応
2023年度稼働の義塾新会計システムCampus Planと連携したAlma支払データ一括処理に対応するため、プログラム改修を行った。

三田メディアセンター

1. 館内施設・設備

- (1) 予てから進めていたカード目録廃棄作業がほぼ終了した。一部のカードは史料として、新館1階ラウンジの目録ボックスにて保存する（4月）。
- (2) 新館4階セミナー室の防音対策工事を実施した（6月19日）。
- (3) 新館書架の一部に感震式の資料落下防止装置を設置した（8月1日～7日）。
- (4) カウンターのアクリルパネルを撤去した（7月12日）。
- (5) 新館2～4階および旧館の冷水器計5台を撤去し（12月16日）、代わりに新館2階にウォーターサーバを設置した（12月19日）。
- (6) 館内コピー機2台を撤去、5台を入れ替えた。複写カウンターのコピーカード販売機も入れ替え、両替機は廃止した（2月28日）。

2. 各サービスの新規導入・変更・再開

- (1) リソースシェアリングシステムRapidILLの有料トライアルを開始した（4月12日）。その後トライアル対象を全キャンパスに広げ（6月16日～7月31日）、検証を進めた。事務処理の負担軽減や利用者の費用負担軽減、文献入手までの時間短縮などの利点が認められたため、最終的にRapidILLを全キャンパスで正式導入した（9月1日）。
- (2) 私設秘書用図書利用券の運用を開始した（5月26日）。対象は三田所属の専任教員・定年退職者・名誉教授の私設秘書で、全メディアセンターへの入館、資料の閲覧・複写、代理貸出・返却が可能となる。
- (3) 新館4階セミナー室の利用制限を緩和した。CO2濃度センサーの測定結果を受け、全室最大10名まで利用可能とした（6月6日）。
- (4) 山中資料センター2号棟への大規模な資料移動を実施した。移動対象は、新館地下5階洋雑誌（～1969年、大型資料を除く）17,367冊や、旧館地下1階CL（中国文学）コレクションの全集類1,199冊など。
- (5) これまで新型コロナウイルス感染拡大防止のために暫定的に実施していた以下のサービスが正式運用となった：
 - a 郵送による資料貸出（3月13日）
 - b 複写物の郵送（3月13日）
 - c 閉館時のブックポスト利用（3月14日）
 ※ a, bについては全キャンパスで実施。
- (6) 新館1階データベースエリアの専用端末にて、修士論文リストの館内限定公開を開始した（3月27日）。PDF提出分（2021年3月以降修了）と冊子提出分（書誌・所蔵データのみ）が対象。

3. 学外協力活動

- (1) HathiTrust（ミシガン大学）スタッフとのZoomミーティングを実施した（5月11日）。また、広報室からはHathiTrust加盟についてプレスリリースも発信された（6月9日）。※HathiTrustへの正式加入は2022年2月。
- (2) ICPSR国内利用協議会2023年度統計セミナーにて、慶應が開催校を務めた（8月30日～31

日)。セミナー講師は経済学部および商学部の教員2名に依頼した。

日吉メディアセンター

1. 施設・設備の改修・変更

- (1) 館内ほぼ全ての閲覧席の利用を再開した（4月）。
- (2) 2階・3階のグループ学習室に予約システム（Suwary）を導入して4月からグループによる利用を再開した。連日満席の状態が続いたため9月20日からは机のレイアウトを変更し、予約卓を4卓増やして合計14卓とした。
- (3) 教職員証で利用できる専用コピー機が図書館4階、日吉保存書庫に各1台設置された（4月）。
- (4) 館内の各カウンターに設置していた飛沫防止パネルを撤去した（7月）。
- (5) 工事関係については、夏休みに、3階中央廊下から東閲覧室へのドアを自動ドアに変更、1階レファレンスルームと2、3階南側の窓を遮熱ガラスに入替、館内窓サッシ修理、図書館棟外壁改修（4年計画の1年目）が行われた。図書館棟の鍵は年度末にかけて順次交換された。
- (6) 持ち込みPCの利用増加に伴い、ITC端末が設置された2階東閲覧室PCエリアの利用が減少したため、通常の閲覧室に改装した（9月）。
- (7) 地震の際に落下する資料が多い4階東閲覧室書架の最上段（746段分）に耐震落下防止シートを設置した（9月）。
- (8) 館内掲示やサインの見直しチームを12月に発足し、掲示場所による掲示物の内容を整理し、古くなった館内サインを一新した。
- (9) PCや電卓などキータッチ音が出る機器の利用を禁止している2階「小閲覧室／Carrels」の名称を「サイレントスタディールーム／Silent Study Room」に変更した（3月）。
- (10) 日吉保存書庫の入退館システムを更新した（12月）。
- (11) 2階トイレ（男女）の和式便器を洋式に変更した（1月）。

- (12) 故障したAVホールの配信・録画装置を撤去した（2023年2月）。
- (13) 館内の照明のLED化工事を開始した（3月）。
- (14) 義塾の方針変更を受けて、館内の感染症対策をほぼ感染拡大前の状態に戻した。但し、図書館入口やカウンターの手指消毒液は残し、各階利用者用トイレ前に追加設置した（3月）。

2. 企画・広報

- (1) 新入生対象（新入生以外も参加可）のセルフオリエンテーリングを開催し、164名の参加があった（4月1日～30日）。通信教育課程夏期スクーリング生に向けても開催し、約380名の参加があった（8月5日～20日）。
- (2) HAPP恒例企画のライブラリーコンサートを2回、動画配信を併用して開催した（5月20日ジャズ、25日弦楽四重奏）。
- (3) 図書館フレンズは継続参加者5名と合わせ合計28名で5月から活動を開始した。5月27日には丸善丸の内本店で塾生選書ツアーを実施し、選書した図書は後日会期を2回に分けて展示した。また、12月から1月にかけて推薦映画展示「FILM EXHIBITION」や「本の福袋」を企画した。
- (4) 第4回ビブリオバトルを開催しバトラー4名が参加（12月8日）、後日、紹介された図書を展示した。
- (5) 1階から3階の中央廊下にある日吉ギャラリーのポスター17点を入れ替えた（9月）。
- (6) 企画展示
 - ・2022塾生会議関連展示「SDGsのすゝめ」として、「2022塾生会議」の開始に合わせてSDGsに関連する資料を展示した（6月～7月）。
 - ・2009年から2019年度まで、新刊図書案内から利用者が選定した図書を「ラウンジ選書」として展示していた。この運用を少し変更し、選定者を図書館フレンズに変えた「フレンズ選書」を秋学期より開始し、1月から教科書コーナー前での常設展示を開始した。あわせて図書館フレンズTwitterでの配信も行っている。
 - ・「世界の文学賞～受賞作品を読んでみよう！」では、日本・世界に存在する様々な文学賞の受

賞作品を展示して貸出を行った（10月1日～12月10日）。

3. 利用者サービス

- (1) KOSMOSで検索できなかった中国語，朝鮮語，ロシア語，アラビア語資料約1,200冊の遡及入力作業を再開した（4月）。
- (2) 『日吉図書館利用ガイド』の電子化について，入学センターより合格者・手続き者配布書類のオンライン化について協力の要請があった。2022年度版の紙媒体はA4三つ折り両面1枚で作成，ウェブ配布（PDF）と館内での紙媒体配布のハイブリッド化を行った（4月）。
- (3) 館内設置PCのリプレースに伴いCD/DVDドライブが内蔵ではなくなったため，外付けドライブの貸し出しを開始した（7月）。
- (4) AVコーナーでの持ち込み資料の視聴を可能とした（11月）。
- (5) 学生用図書の収集方針をウェブサイトで公開した（7月）。
- (6) 2021年度から実施した学習相談員（学生）によるオンラインでの相談受付は，春学期の受付実績が無かったこととWebexの学内提供が休止されたことにより終了した（8月）。
- (7) AVコーナー設置の「AV資料一覧」を更新し，ウェブサイトで公開した（11月）。
- (8) 専任職員10名で行っている蔵書リフレッシュ（図書館図書の見直し，除籍，買い替えなどの促進）で，図書約7,000件を除籍し，350件を買い替えた。
- (9) 2022年度日吉図書館利用統計
入館者数：580,069名（2021年度：252,114名）
*コロナ前2019年度比 75%
貸出冊数：82,923冊（2021年度：68,137冊）
*コロナ前2019年度比 67%

4. 資料移動・除籍

- (1) 書庫狭隘化対策
 - ・日吉図書館および三田メディアセンターの所蔵と重複している4階研究室フロアの和書約9,500冊を山中資料センター2号棟へ移動した（8月）。
 - ・上記作業により空いた書架を利用し，東閲覧

室と西閲覧室に分かれていたロシア語図書を，西閲覧室にまとめた（9月）。

- ・化学A・B研究室の資料2,115点，数学研究室の雑誌5誌を除籍した（9月～12月）。
- ・語学学習コーナーには，語学検定関連図書と多読書のみを配置することとし，請求記号変更，内容が古いものの除籍・買い替え，一般書架への配置換え等の作業を進めた（9月～）。

5. 協生館図書室

- (1) 教職員証で利用できる専用コピー機が1台設置された（4月）。
- (2) 館内全ての閲覧席の利用を再開した（10月）。
- (3) 書庫狭隘化対策の一環として，経営管理研究科所蔵の和雑誌のうち，日吉保存書庫配架で他キャンパスにも所蔵がある資料約3,500冊を除籍した（11月～2月）。
- (4) Bloombergデータベースの契約を終了した（3月）。
- (5) 2022年度協生館図書室利用統計
入室者数：12,775名（2021年度：7,202名）
*コロナ前2019年度比 31%
貸出冊数：3,288冊（2021年度：2,505冊）
*コロナ前2019年度比 61%

信濃町メディアセンター

1. 新型コロナウイルス感染症対策に伴う制限解除

- (1) 開館時間短縮の終了
新型コロナウイルス感染症の拡大への対応として2022年3月末まで平日の開館時間を1時間短縮して20時閉館としていたが，通常通りの開館時間へ戻した（4月）。
- (2) 館内の座席，PC，セミナー室，グループ学習室の完全開放
段階的に書庫3-4階，くつろぎエリアの閲覧席を開放し（4月），館内の全ての席を開放し（7月），ITC管轄のPCも全て利用可能とした（11月）。また地下セミナー室，グループ学習室も開放し，室内に二酸化炭素モニターを設置した（11月）。閲覧席利用者の検温も終了した（12月）。

- (3) 所属者限定の入館制限終了
信濃町キャンパス所属者にのみ利用を制限していたが、慶應義塾所属者、三四会員等、塾員の入館を可とし(10月)、利用資格のある学外者も含め利用可とした(11月)。
- (4) 飛沫防止シート、アクリル板の撤去
貸出カウンターと、レファレンスデスクに設置した飛沫防止シートを撤去した(7月)。また閲覧席と受付カウンターのアクリル板も撤去した(3月)。
- (5) 対面形式でのミニ講座、活用講座の再開
動画で配信していた講座を対面形式で再開した(10月)。ミニ講座はレファレンスデスク、活用講座は地下セミナー室で行った。

2. サービス基盤業務

- (1) ブックポスト設置
病院の旧中央棟に設置していたブックポスト1台を、1号館の教職員ラウンジ内に設置した(8月)。
- (2) プロジェクター新規購入
地下セミナー室プロジェクター不具合により、新たにプロジェクターを購入した(2月)。
- (3) keiomobile2用アクセスポイントの増設・交換
1階、4階書庫の各2台、地下1階グループ学習室、1階会議室を増設し、2階、3階書庫の各2台を交換した。また事務室、1階レファレンス側閲覧室エアコンの交換工事を行った(3月)。

3. 医療活動支援

- (1) 大学病院機能評価
病院機能評価の項目に信濃町メディアセンター、健康情報ひろば、KOMPASも含まれており、根拠資料の提供や部署訪問に対応した(9月)。
- (2) 関連病院図書担当者連絡会開催
オンライン(Zoom)で開催し、14機関15名が参加した。例年行っている関連病院コンソーシアム契約状況報告および信濃町メディアセンター活動報告のほか、参加者より病院図書室の事例報告があった(2月)。
- (3) 健康情報ひろばの運用変更

感染者数の増加により2022年1月より活動休止していたボランティアスタッフの活動を再開し(6月)、新たに1名のボランティアスタッフを受け入れた(9月)。嘱託職員の常駐を終了し、開室時の患者対応はボランティアスタッフのみとなったため、開室時間を10時~15時に変更した(3月)。

4. 資料関連

- (1) 書庫1階、2階図書の旧版複本の除籍
新版受入により旧版となった図書の複本(計294点)を除籍した(12月~1月)。
- (2) 教科書コーナー等のインベントリ実施
入口正面にある教科書コーナーおよび診療ガイドラインコーナーのインベントリを行い、データ修正、旧版除籍、装備修正を行った(1月~2月)。
- (3) 慶應義塾医学部新聞の脱酸処理
慶應義塾医学部新聞の原紙(製本版)の脱酸・補修処理を実施した(3月)。

理工学メディアセンター

1. 施設・設備の改修・変更

- (1) コロナ禍で利用困難となった冷水機の代替としてSDGsに配慮したウォータースタンドを設置した(4月4日)。
- (2) キャンパスでの増設対応の一環としてAEDが館内に設置された(6月)。
- (3) 創想館1階入退館ゲートを更新した。IC型学生証・教職員証へ対応し、退館時の認証機能を追加した(8月4日)。
- (4) 創想館エントランスエリアに新着図書書架を設置した。設計・デザインを理工学部システムデザイン工学科ホルヘ・アルマザン研究室が行い、メディアセンターと研究室とのコラボレーションにより新たな場を創設した(8月30日)。
- (5) 創想館1階4KTVにデジタルサイネージ機能を追加した(3月16日)。
- (6) 本館1階セミナールームCの防音工事を行った(3月31日)。

2. COVID-19に関連する制限の段階的緩和

- (1) 7月より創想館地下自習室の利用制限を緩和し、授業期間中の日曜13時から20時の開室ならびに試験期の夜間利用時間の延長（朝まで開室）を再開した。
- (2) セミナールームやグループ学習室等のグループ利用を順次再開し、間引きしていた閲覧席をほぼ元の状態に戻した。
- (3) 感染防止用アクリル板パーティション・ビニールカーテンを7月に各サービスカウンターから撤去し、3月にはすべての閲覧席から撤去した。

3. 企画・広報・イベント

- (1) 2022年度ノベルティグッズとして猫型フックマグネットを作成した。来館記念や施設に関する簡易アンケートのインセンティブとして、学生に配布した。
- (2) 広報紙「理工学メディアセンターニュース」のコラムとの連動企画である小展示：理工学部教員の「私の一冊」を4月1日～5月31日に実施した。
- (3) 選書ツアーを9月10日に丸善丸の内本店で行った。学生の選定により新規購入した資料の展示をPOP付で以下の期間に開催し、蔵書構築・空間作りへ学生目線を取り入れた（2022年12月7日～2023年2月28日）。
- (4) 2022年12月に第2回プレゼンバトルを約3年ぶりに開催し、プレゼンター・観戦者ともに他キャンパスからの学生の参加を多く得た。教員が講師となるサイエンスカフェは通算20回を超え、2022年度内に2回開催した。
- (5) コロナ禍で停止していた高校生対象のオンラインブラリーを再開した（3月1日～31日）。

4. 利用者サポート・セミナー

- (1) 大学院生スタッフによる学部生への学習支援（ラーニングサポート）を対面／オンラインの両方で提供した。春と秋の定期試験期間には、日吉での出張相談を実施した。
- (2) 対面授業の再開に伴い、文献探索セミナーをオンラインまたは対面の選択制とし、両者がほぼ半数ずつの実施結果となった。外部講師

によるセミナーは、キャンパスの垣根を越えて学生が受講できるよう、前年度に引き続きオンラインで実施をした。

- (3) 文学部図書館・情報学専攻の実習生1名を受入れた（8月15日～26日）。
- (4) 年度末に3年半ぶりの留学生ガイダンスを実施した。あわせて館内施設を紹介するオンラインツアー・ショートムービーの英語版を作成した（3月）。

5. 資料購入関係

- (1) 一般財団法人慶応工学会より学術振興事業の一環として、学生用図書購入のための寄付金15万円をいただいた（7月27日）。
- (2) 記録的な円安による価格高騰のため、利用統計や2021年度実施の教員アンケートに基づき雑誌の購読契約をさらに見直した。
- (3) 理工学部の間接経費の支給を得て、Nature関連誌や高エネルギー物理学関連雑誌コレクションのアーカイブ購入に充当した。

湘南藤沢メディアセンター

1. 新型コロナウイルス感染症対策関連

- (1) 各サービスの変更・再開
 - ・2階、3階のグループ学習室を利用可能な人数の制限や、常時換気等の条件のもと、利用を再開した（4月1日）。
 - ・学期期間中の平日の開館時間をメディアセンターは21時から22時に（6月27日）、看護医療学図書室は18時から20時に変更した（5月16日）。
 - ・メディアセンター、看護医療学図書室内のビニールシート／アクリル板を撤去した（6月～7月）。
 - ・2階、3階の閲覧席の制限を解除し、全席利用可とした（10月3日）。
 - ・各地下施設の予約の運用を1施設1日1組から1施設1日複数組まで受けられるように変更した（10月3日）。
- (2) 慶應義塾における感染症対策の基本方針見直し後の対応（3月13日）。

- ・マスク着用，消毒に関する掲示等を撤去した。
- ・グループ学習室の椅子の数は変更しないまま，利用可能な人数制限の上限を撤廃した。
- ・看護医療学図書室の閲覧席（個席）の利用制限を終了した。

2. 施設・設備の改修・変更

- (1) 地下1階，1階の誘導灯を増設した（4月，5月）。
- (2) メディアセンター，看護医療学図書室の入館ゲートならびに図書無断持出防止装置（BDS）を更新した（8月）。
- (3) ファブスペースのロールカーテンを交換・調整した（11月）。
- (4) 利用者エリア4か所への網戸設置工事を行った（1月）。
- (5) 2階，3階グループ学習室のパーテーションを全面ガラス製にしてドアを撤去，またパーテーションの位置も組み替えた（2月）。

3. ライブラリーサービス関連

- (1) 新入生歓迎の館内謎解きイベント「カモからの挑戦状」を行った（4月1日～5月14日）。
- (2) SFC30周年記念企画の1つであった電子ブックプロジェクトによって図書8タイトルの電子ブック化が完了した（7月）。
- (3) 総合政策学のブックプロジェクトに関連して，総合政策学ワーキングペーパーシリーズをKOARAに搭載した。
- (4) 館内の研究会展示試行として，アラブ文化研究会主催の写真展「僕のウムラ旅 My Umra Experience」を1階オープンエリアで行った（1月18日～28日）。
- (5) 原価高騰，円安，予算削減の影響で電子ジャーナル7タイトル，新聞13紙の購読を2022年末で中止した。
- (6) 学生コンサルタントの活動
 - ・ライティング&リサーチコンサルタントはNeat Bar導入によるオンライン窓口対応を開始した（10月11日）。
 - ・データベースコンサルタントは秋学期からオンライン勤務からオンキャンパス勤務に変更した。

- ・メディアセンターフレンズは2022年度，イベント2件，企画展示2件，Twitter企画を2件行った。
- (7) 8Kディスプレイを1階ラウンジへ移動した（3月8日）。

4. マルチメディアサービス関連

- (1) サービスの変更
 - ・AV機材の貸出日数を7泊8日からコロナ禍以前の3泊4日へ戻した（4月1日）。
 - ・AVカウンターの平日の受付時間を17時30分から21時までに，ファブスペースの平日の受付時間を17時から20時30分までに延長した（10月20日）。
- (2) AV機材のリプレース
 - ・貸出機材のビデオカメラ Panasonic社 AG-DVX200（10台）を，Blackmagic Design社 BMPCC 6K Pro 5台とPanasonic社 CX-350 7台の2種類にリプレースした（5月，10月）
 - ・3Dプリンター4台をMakerBot社からAnker社4台へリプレースした（3月）。

5. 看護医療学図書室関連

- (1) 看護医療学部校舎の入構規制緩和により，事前申請のうえ塾員／医療従事者等一部学外者の利用を再開した（10月3日）。
- (2) 2022年度より，これまでの専任職員／嘱託職員各1名，臨時職員2名の業務体制から，専任職員1名，嘱託職員2名へ変更した。
- (3) 企画展示
 - ・新入生向けに，館内展示「大学生活スタートBooks」を行った（3月～5月）。
 - ・館内展示「とにかくかんたん！入門の書」を行った（6月～7月）。

薬学メディアセンター

1. 新型コロナ感染対策関連

- (1) 芝共立キャンパスの規制方針に従い，2022年度も薬学部および薬学研究科所属者のみ利用可能とする運用を継続した。
- (2) 4月1日付での規制方針緩和を受けて，自習

目的の際に必要としていた入館予約やPC利用申込を不要としたほか、グループ学習室のグループ利用を可能とした。

- (3) 7月1日付でのさらなる規制緩和に伴い、利用者の入退館記録の記入を不要としたほか、館内の飛沫防止シートやアクリルパーティションを撤去した。
- (4) 3月13日の芝共立キャンパス感染症対策ガイドライン廃止によりマスク着用や手指消毒の徹底が不要となり、ほぼコロナ前の運用に戻ることとなった。ただしグループ学習室については個人利用が多い状況を考慮し、コロナ対応として変更した運用を当面維持することとした。

2. 学習環境の整備

- (1) 12月23日から1月31日まで、薬学部・薬学研究科の学部生・大学院生約1,300人を対象にGoogleフォームを利用して学生アンケートを実施し、341件の回答を得た。空調や閲覧座席・開館時間に関する要望を中心に様々な意見が寄せられた。要望等には可能なものから順次対応し、アンケートの集計結果と対応・回答を公開した（3月）。
- (2) オンラインでの授業や発表の際の音漏れを低減させる目的で卓上吸音テレワークブースを2台購入し、グループ学習室に設置した（2月）。
- (3) 閲覧席のレイアウトについて、3人掛けの机を2人用に変更する一方、机幅がやや広い席を間引かず利用可能にすることで、所定換気量に対する最大座席数（110席）を維持しながら、隣接席が気にならないよう工夫した（3月）。

3. 利用者サービス

- (1) グループ学習室申込用のGoogleフォームを作成し、運用を開始した（4月）。
- (2) Twitterのアカウントを作成し、新着図書や開館情報などの投稿を開始した（7月）。
- (3) 2月10日は降雪による交通機関への影響を考慮し、閉館時刻を繰り上げた（21時→17時）。

4. 資料関連

- (1) 予算削減と値上り、円安への対応として、利用頻度の低い電子リソース購読中止を検討した。アクセス統計および全教員へのメールアンケートをもとに、電子ジャーナル9誌とデータベース1件の中止を決定した。
- (2) 3階資料にカビが発生したため、全書架を専用クリーナーと防カビ効果のあるウェットクロスで清掃した（9月以降）。
- (3) ブラウジングコーナーでは、予算削減に対応し、雑誌・新聞の約半数のタイトルを本年度限りで購読中止した。図書は、既存の旅行ガイドブックなどの軽読書と、別コーナーにしていた就活本をまとめ、請求記号BRを新設付与することで、より探しやすくした（3月）。
- (4) 平成18～20年度文科省の支援事業「社会的ニーズに対応した質の高い医療人育成推進プログラム」（医療人GP）で使用した図書について、重複や旧版が多く利用もされなくなっていたため、複本および新版刊行済の図書は除籍し、それ以外の図書は請求記号を振り直して一般図書へ混架した（11月）。
- (5) 請求記号ラベルについて、赤（洋書用）と黄色（資料費用）の使用を中止し、緑色に統一した（12月）。

5. その他

- (1) コロナ対応として暫定的に中止していた教職員および大学院生による図書館閉館後の無人の時間帯の時間外入館を、セキュリティ上の理由から恒久的に停止とした（8月）。
- (2) 新入職員の芝共立キャンパス職場研修生を2日間受け入れた（5月）。また、信濃町メディアセンターにおける文学部図書館・情報学専攻の実習生が来訪し、見学対応をした（8月）。
- (3) 図書無断持出防止装置（BDS）2台を老朽化に伴い買い替えた（1月）。